

(その145) 何よりも本人と家族の希望を大切に (2017.10 発行)

一昨年7月富士見町に住むTさんの長女Uさん(ベトナム在住)から90歳の母が夫から一方的に別居を宣言され、どうしたら良いか相談を受けました。

所長は公証役場でTさんの委任・任意後見契約をして施設探しと財産管理、市役所、病院などの手続きのお世話をすることになり、7月中旬、高津区のシェアハウス“COCO せせらぎ”に入所が決まり、Uさんは帰りました。その後Tさんはシェアハウスの仲間に支えられながら快適に暮らしていました。

昨年12月風邪をこじらせて肺炎になり入院しました。年末に退院となりましたが、酸素吸入が必要だし、シェアハウスは介護施設でないため介護保険を目いっぱい使ってもプラスの実費介護をしなければ生活できないので中原の介護センターにお願いしました。しかしなかなか症状が良くならない状態でした。

今年5月に帰国したUさんは「このままではお金が続かないし母がベトナムに行きたいと言っているので7月に連れて帰りたい、そのために必要な手続きを始めてほしい」と言ってベトナムに帰りました。

91歳の高齢で「毎日酸素吸入をしているのに6時間もかかるベトナムに連れてゆけるのか」「生活環境が大きく変わるのに耐えられるのか」

「高温多湿で医療水準もわからない所へは死に行くようなものだ」など反対する声が圧倒的でしたが、長女のUさんが何としてもベトナムに行くと言って耳を傾けようとしませんでした。

先日「母がベトナムに来て7週間になりました。母の酸素吸入も取れ、杖をついて歩けるようになり気分がいいときは絵をかいたり短歌を詠んだりできるようになりました。多くの皆さんに大変心配とご迷惑を掛け申し訳ありませんでしたが、ありがとうございました。」と写真付きのメールが届きました。

まだ油断はできませんが周りのみんなの取り越し苦労であればよいかと胸をなでおろしているところです。